

## 協働的な校内研修による 授業改善の取組

勝央町立勝央中学校

### 1 はじめに

数年前、本校は不登校など生徒指導の課題が山積していました。そこで、不登校対策として学校全体で「ぴあっこ育成プロジェクト」を立ち上げました。全職員は「協同学習部会」「ピアサポート部会」「SEL部会」の3部会に所属し、組織的に研修に取り組んできました。3年間の取組で生徒指導問題・不登校が減少しました。しかし、課題として学力向上、大量の教員の異動への対応が求められるようになりました。

※SEL：社会性と情動の学習

### 2 取組

#### (1) 継続できる組織作り

校務分掌と3部会が連携するように、SEL部会に学級活動、ピアサポート部会に生徒会、協



公開授業

#### (2) 授業改善の校内研修

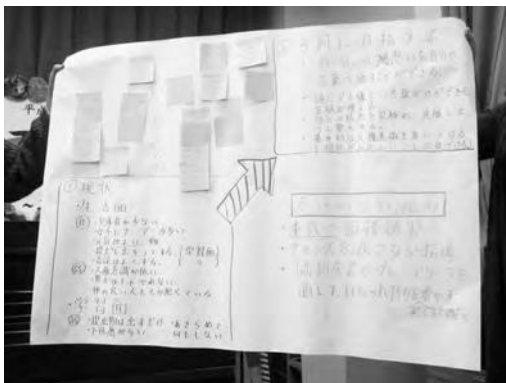
同学習部会に学力担当者が入り、校内の組織を一本化。「人材育成」を合言葉にチームで校外の研修に積極的に参加。新しい職員が本校の目指す方向を共有できることを大切にしました。

協同学習部会・研究主任が中心となり、公開授業後の校内研修の進め方を工夫。助言者の講

義形式を変更し、個人、グループ①、グループ②、講師、個人で考える時間を設定。教職員が協働的・主体的に参加できるようにしました。

#### (3) ベクトル合わせの校内研修

学校目標をもとに、学年ごとに生徒の実態を分析し「目指す子どもの姿」を全教職員で考えます。学年末に学年・学校全体で目指すゴールを考える。11月に全体研修で修正、年度末に次年度のめざす姿を考え、全教職員で共有します。



目指す子どもの姿を考える研修

#### (4) 年間計画を持った補充学習

協同学習部会と学力担当者で学力の課題を分析し、基礎基本

の力と反復学習時間の不足があげられました。そこで、全校放課後補充学習を計画。教科主任を中心に、3年間の見直しを持った年間計画を作成。継続的、計画的な内容で国語と数学の放課後学習を実施しました。

### 3 おわりに

「ぴあっこ育成プロジェクト」を立ち上げた教職員から、新しい教職員集団へと変化してきている本校。まず、生徒の現状分析を大切にし、確認した課題を全教職員で共通理解しました。次に、継続できるものは活用し、役割を明確にしました。そして、現状の課題に対してできることから工夫して、取り組んできました。学力面でも少しずつ成果がでてきています。

今後も大量の教職員の異動が予想されます。校内研修を切り口に、教職員が互いにコミュニケーションをとる時間を確保することで課題を共有して、生徒も職員も笑顔の学校を目指していきたいと考えます。

(校長 光井 一恵)